THE NEW FARMERS ニューファーマーズ

◆郷土を興す農業者
◆日本を伸ばす農業者
◆世界を拓く農業者

No. 251
JAEC会報誌

contents

ご挨拶…… 1
教えて カーラルイーズさん …… 2
研修生からの便り…… 3
令和２年度 ASEAN 研修生の研修が修了しました！/
国際協力事業 in フィリピンが本格的に再始動！ … 4
外国人技能実習生受入事業拡大に向けて /
受入業務課のサイトがリニューアル…… 5
Axxion Coperation…… 6
協会の動き…… 7
協会の行事・関係者の動向…… 8

You Tube で動画配信中

ニューファーマーズ 249 号から、オンラインでもご覧いただけます。
本会ホームページで掲載するほか、Email でも配信します。

ニューファーマーズ No.251 ｜
2022 年（令和４年）１月（年２回 １月、７月発行）
ホームページ：https://www.jaec.org
フェイスブック：https://www.facebook.com/jaec.trainee

編集・発行 / 公益社団法人国際農業者交流協会
〒 144–0051 東京都大田区西蒲田５-27-14 日研アラインビル８階
TEL：03–5703–0251（総　務　部）　03–5703–0252（派遣業務課）
03–5703–0253（活動支援課）　03–5703–0254（受入業務課）
FAX：03–5703–0255

英知の結集に期待する

副会長　五月女 昌巳（栃木県 /S43/ 米１）

明けましておめでとうございます。終息に期待しているコロナ禍の中でありますが、盟友の方々ご無事で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

国際農業者交流協会は海外との交流なく存在はありません。自国が安全宣言をしても、外国に不安があれば進展はありません。対面で行われていた諸会議は全てオンラインによって行われ、会員の皆様にはご不安とご不便をおかけしております。この逆境は、全ての方々も体験され労苦を味わっている中ではございますが、多くの会員会友の方々にご寄附を頂き、協会役職員の力の源となっておりますことを厚く御礼申し上げます。

さて、協会の派遣事業や受入事業はコロナ禍で研修生数が少なくなりました。特に日本人農業研修生の掘り起しを全国会員の皆様の英知を結集して、こまやかな配慮をしつつ行っていく最終段階にあります。単独行動を得意とする方も、複数で連携をとり、海外に夢を託する青年を見つけ勇気を与え送り出してほしいものです。必要でしたら野中会長はじめ、私共全役職員一丸となり全国に足を運び、気を一段と引き締める年にしたく感じています。海外農業研修を共にした貴方が、協会組織の一枚看板であるのですから。

第一次産業の骨格は農業で成り立っておりますが、日本は工業立国といわれ、商業では農産物が主であるのに、インターネットはその良し悪しにかかわらず情報が自由に利用され、際限なく情報が共有されています。いままでの商業ではなし得なかったことで、将来性が見出せるものだけが動いて社会を作ってしまっており、市場も店舗も淘汰されてしまいます。情報に信頼があるマスコミを使う宣伝広報よりも、インターネットの自由な場で集客できる新しいトップ経営者が現れています。

国際農業者交流協会、国際農友会は時代に残されず、常に世界から必要とされる活動を作り出し継続できる組織であるわけです。時代のニーズに合わせた展開をする絶好のチャンスです。この機会を逃さず、最大限の英知と力を結集しようではありませんか。

教えて カーラルイーズさん

2020 年 4 月より、JATP：Japanese Agricultural Training Program（海外農業研修アメリカコース）のディレクターを CarlaLouise Christian さんが担っています。2021 年 6 月に渡米した研修生たちの研修農場をカーラルイーズさんが訪ねました。彼女のご紹介も含めて、アメリカ中西部の農場訪問レポートをお届けします。

Hello, my name is CarlaLouise Christian; the Japan Agricultural Training Program(JATP), my office is located at Big Bend Community College in Moses Lake, WA.

I grew up on an 800-acre family farm with my parents

ネブラスカ州の養豚農場にて

and three brothers 15 miles from George it is a small town consisting of 400 residents located in Eastern/Central Washington State, USA. Our family grew row crops such as sweet corn, dry corn (used for corn silage to feed cattle), red beans, carrots, alfalfa hay, and wheat. We also had 50 head of beef cattle, a horse, chickens, several cats, and a dog. However, my parents sold the farm a few years ago, because my siblings and I chose other professions.

The Agricultural situation in the US since the Covid-19 and weather pattern changes, such as drought has influenced crop conditions. Agribusiness changes have benefitted some farmers and hurt others.

In September and October 2021, I visited host farms and trainees in the mid-West, Idaho, Oregon, and Washington. The Nebraska Swine farm is seeking to expand and would like to host 3 – 4 Japanese trainees annually. The swine farm in Illinois is planning to update some of their equipment and would like to host 2 – 3 Japanese Trainees. The modest dairy farm in Minnesota has grows row crops, mostly soybeans and dry corn for cattle feed. A recent storm blew through Wisconsin and torn up trees, caused barn damage, causing late harvest of crops. The Holstein dairy farmers would like extra hands to maintain the cows and calves, and to host two Japanese trainees. The dairy farm in Idaho is seeking to expand and diversify their agriculture business and are seeking to host 2 - Japanese trainees annually. Overall, the host farmers are happy with the trainees and thankful for the training program.

The trainees learn a variety of agriculture techniques depending upon their host farm and their willingness to learn. Each host farm offers a different living experience, some trainees live in the host farmers house and others have their own or shared dwelling with other trainees or workers. The trainees learn to work as a team and develop into skilled farmers.

Your support is important to the sustainability of JATP.

海外農業研修アグトレチームでは、オンライン（各種 SNS）での PR を継続的に行っています。今後とも海外農業研修へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

アイダホ州の山羊農場にて

ワシントン州の大規模果樹農場にて

アグトレ・情報
チャンネル
（YouTube）
▼

研修生からの便り

「伝える気持ち」

髙橋 沙織（令和２年度 アメリカ研修生 / 埼玉県出身）
研修農場 Buchholz & Buchholtz Nursery

私はオレゴン州にあるメープルやコニファーを中心に生産・卸売りを行っている植木屋で研修をしています。只今、雨季に入り、毎日雨が降ったり、止んだりを繰り返す日々です。作業内容は出荷や剪定、植え込み、接ぎ木などを行い、忙しくも非常に充実した研修ができています。

さて、農場での生活も２か月が経過しました。アメリカでの生活にも慣れた今日この頃。改めて思うことは“伝える”という気持ちの大切さです。農場にはヒスパニック系の方も多くいますが、中にはスペイン語でのみ会話ができるという方もいます。お互いに英語が分からない、スペイン語が分からないという状況の中で、覚えたてのスペイン語を使い、相手の知っていそうな単語を選び、身振り手振りを交えながら説明をしています。その思いが通じ、私が伝えんとしていることが相手に正確に伝わったときの喜びは一入です。

同じ言語を使っていようとも、相手を理解したい、伝えたいという思いが無ければ相違は起こりうるものですが、アメリカで違う言語や文化の人と働くという経験をしていく中で、より伝える、伝わるコミュニケーションがいかに重要であるかということを実感しました。今後、英語やスペイン語が上達したときに、同じ言語を共有していることに甘え、コミュニケーションが雑で、配慮に欠けたものにならないように、今感じている相手に伝えたいと思う感情を忘れず、大切にしていきたいと思っています。

勇気一瞬、後悔一生

永木理子（令和２年度オランダ研修生 / 長崎県出身）
研修農場 GAOS

人生は一度きり。農家出身でもなければ農業経験も満足になかった私だが、世界を見てみたいという強い気持ちから海外農業研修に参加することを決意。しかし、渡航予定だった年に新型コロナウイルスにより渡航が急遽延期に。誰のせいでもないし、どうしようもできないことだった。当時は渡航の目途もたたない状況だったが、渡航できるまでの間何をすべきか考えた末、住込みで研修生として受け入れてくださる農家さんのところで国内研修をすることを決めた。約一年半の研修だったが、農業経験はもちろん体力面や精神面など得られたものは多く、今の研修をやっている上で役立っているなと感じる場面が多々あり、任せられる仕事のレベルも変わってくるし、研修中の理解度なども変わってくる。この研修に参加する上である程度の農業経験を積むことで、研修での経験に深みをだせていると体感している。

なかなか渡航の目途がたたなかった今年度の研修だったが、予定の２か月遅れで無事渡航成功。約４か月間、少量多品目栽培のオーガニック野菜農家にお世話になった。決して大きな農家ではなかったが、デリバリーやマーケットで直接お客様に自分たちが育てて収穫した野菜が届くという農家だった。いちばんやりがいのある仕事は、毎週金曜日に町で開催されるオーガニックマーケットでの仕事だった。基本量り売り、日本では見たことがない野菜も多く、商品の名前や数字、量の単位などはがんばってオランダ語で覚えたが、第一言語はオランダ語だが英語を快く話してくれるお客さんばかりで、接客時に雑談したり、分からないことを教えてもらったり、顔を覚えてくださっていた時が嬉しかった。でもやはり、自分で収穫してパッキングしたものが売れた時がいちばんの喜びで、農作業のモチベーション向上にも繋がった。

この農家での研修を終え、今は大規模栽培のオーガニック栽培の一種であるバイオダイナミック農法を取り入れている農家で研修をしている。研修期間が折り返してあと半年、農業面でも言語面でも今まで以上に吸収していきたい。

新型コロナウイルスのため参加を迷っている方へ。渡航ができるまでの待機期間中に断念しそうになった時もあったが、今この瞬間想像をはるかにこえた経験を得ることができている。私はコロナ禍の渡航、研修参加を決断したことに後悔していない。

令和２年度 ASEAN 研修生の研修が修了しました！

今年度の修了式はタイ王国大使館のご協力のもと、特別にタイ王国大使館で実施させていただき、特命全権大使のシントン・ラーピセートパン大使がご出席くださいました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延という世界的に大変な状況の中、12 名のタイ人研修生はひとりとしてコロナに感染することなく、無事に研修を終えることができました。

何をするにも、どこへ行くにも「マスクの着用、アルコール消毒、検温、ソーシャルディスタンス」など、常に健康に気を遣う状況ではありましたが、厳しい条件の中でも、日本の農業について学ぶことができたようです。受入農家の皆様、研修生を受け入れていただきありがとうございました。

国際協力事業 in フィリピンが本格的に再始動！

2007 年から海外の農村開発を支援する国際協力事業を行っています。

舞台はフィリピン共和国ルソン島。面積、人口共にフィリピン最大の島であり、首都のマニラもルソン島にあります。地方の農村の生活は貧しく、発展著しいマニラとは対照的に、月収が２万円にも満たない農家も珍しくありません。その背景には、栽培技術の未熟さに加え、農産物流通にも課題があり、高品質の野菜が供給できていない現状があります。

今回のプロジェクトでは、炭や木酢液など、地域で手に入る材料から製造した有機資材を活用した「安全野菜生産技術」、農産物の輸送を効率化する「流通改善技術」、この２つの技術を普及することで、農業生産と流通の双方を改善し、農家の所得向上を目指しています。

JICA 草の根技術協力事業が 2019 年 11 月に終了して以降、コロナ禍の影響により中断していた本事業ですが、外務省の『日本 NGO 連携無償資金協力』による事業として 2021 年に採択され、活動を再スタートしています！

現地駐在員として、佐藤利春職員が８月、吉田誠也職員が 11 月にフィリピンに赴任し、フィリピン農家のために日夜奮闘しています。２人の活動の詳細や最新情報は、協会ホームページで新しくなった受入業務課のサイトで発信していきます！

AIG損害保険株式会社
AIG
東京法人営業統括部
東京コーポレートキャリアエージェント営業部
営業１課　担当：室田
〒130-0013　東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル 17F
TEL：03-5637-0721　FAX：03-3622-2040

Hakusan Holdings ハクサンホールディングス株式会社
海外研修を受けた皆さん、
私たちと一緒に働いてみませんか。
当社は園芸分野で国際的なビジネスを展開する種苗会社です。 詳細は下記まで
〒470-0104 愛知県日進市岩藤町三番割321-1 TEL.0561-75-5777(代) FAX.0561-75-5776
E-mail:info@hakusan1.co.jp https://hakusan1.co.jp/

外国人技能実習生受入事業拡大に向けて

外国人技能実習生受入事業については、多くのOB・OGの皆様から事業拡大のご要望いただいております。これまで、ご希望にお応えできずにいましたが、この度、タイからの実習生の受入や新しい地域からの受入を展開していく方向で動いています。

今後、技能実習生の受入れを考えている農家の皆様、遠慮なくお気軽にご連絡ください。事業をご理解いただけるようパンフレットもご用意しております。

事業の詳しい情報は下記QRコードのホームページからもご確認いただけます。

受入業務課のサイトがリニューアル

JAECと言えば、日本の農業青年を海外に派遣するアグトレ(海外農業研修)をイメージされる方が多いかと思いますが、海外の農業青年を日本に受け入れる『受入事業』も重要な柱の一つです。

受入業務課の新しいサイトには、受入事業の3つの事業内容が詳しく掲載されています。

①アジア農業青年人材育成事業
(ASEAN諸国から若い農業研修生を受け入れるODA事業)
②外国人技能実習生受入事業
(外国人技能実習生制度を活用した農業研修生の受入事業)
③海外農村開発支援事業
(フィリピンで実施される国際協力事業)

国内で行われる外国人研修生の受入事業と、海外での開発支援事業は一見毛色が違うものに見えますが、どちらも海外の人材を育てる国際協力の一環であり、社会的に大きな意義のある事業です。

海外からの研修生を受け入れたいという農家の方や、国際農業協力に興味がある方など、幅広い方にとって価値のあるホームページに仕上がっていますので、是非ご覧ください！

新しい賛助会員の紹介

㈱アクションコーポレーション

代表取締役 尾形 守
研究顧問：埼玉工業大学 宇城正和（農学博士）代筆

設立されて 20 年の歴史を持つ㈱アクションコーポレーションは、主に米国の芝草用肥料を輸入販売してきましたが、5 年ほど前から、農業用資材の販売へも参入を始めました。それは、米国農業用資材の分野で近年大きな成長を続けている米国リドックス社の製品を、日本農家の方々にも使って頂きたいと思ったからです。

アメリカは御承知のように大規模農場経営で、一農家の平均面積は約 178 ha（日本の平均は 3.0 ha）にもなり、使用する肥料代もかなり大きな額になります。収量や旨味などを向上させる効果があり、且つそれによって収益を高める肥料が求められています。そのような厳しい米国農業の中で鍛え上げられてきたリドックス社の製品群には、日本の肥料にはない素晴らしい特長を備えています。

また、リドックスの大きな理念の一つが持続可能性（サステナビリティ）への貢献です。より少ない肥料でより大きな効果（MORE with LESS）をもたらすことができます。環境に対する優しさだけではなく、農家の方々にとっての持続可能性（健全な経営の持続）をもたらすことにも貢献していると言えるかもしれません。

現在の世界・日本農業の動向

地球温暖化、将来の気候大災害をくい止めるために、世界中が対策を講じる時代になってきました。日本政府も 2030 年までに温室効果ガスを 2013 年度比で 46％削減、2050 年にカーボン・ニュートラルを実現すると公約しました（11 月 2 日、COP26 で岸田総理発表）。幸い農業は植物を基盤とする産業なので、二酸化炭素 CO2 を吸収するカーボンネガティブの働きを本来的に持っています。日本政府は「みどりの食料システム戦略」で脱炭素化へ向け、ドローンの効果的な使用や農地の微生物の完全解明と活用など、大きなイノベーションを推進する戦略を掲げています。

米国では主に小型機での飛行散布が主流ですが、日本においてはドローン散布が主流になると考えられます。原液のまま、或いは 8 倍程度の希釈など、いわゆる極少量散布が可能なリドックス製品は、小さいタンクしか積めないドローン散布にも最適な資材であり、既に日本においても牧草農場や稲作においての実績がございます。

リドックス製品のご紹介

リドックスの資材は、ヨーロッパを中心として、世界中から関心を集めている環境に優しく、脱炭素にも貢献する農業資材バイオスティミュラント（生命活性資材）のグループに入ります。リドックス製品は、土壌に施肥した栄養素（陽イオン、陰イオン）ができるだけ多く吸収されるように、土壌での不都合な結合を回避する特許技術が使われており、その吸収効率は９０％以上にものぼります。

また、リドックス社の社名の由来でもある”抗酸化力”という点では、他の資材を圧倒していると言え、病虫害の被害軽減にも大きな効果をもたらします。加えて収量の増加、味を良くする、棚持ち期間を延ばす、といった品質の向上にも確かな結果を出しております。製品詳細などについては、弊社アクションコーポレーションのホームページ内にございますので、是非一度ご覧になってみて下さい。

リドックス吸収効率の図解

HP:www.axxion-ag.com

協会の動き

賛助会員・寄付のお願い

国際農業者交流協会の活動をご支援ください！

●賛助会員

協会の活動にご賛同頂き、年会費によって支えて頂いております。希望される方は、協会までご連絡ください。

●寄付金

協会への寄付金は、公益目的事業の運営に用いることと定められています。

ご寄付にあたっては、ゆうちょ銀行（同封の赤色の振込取扱票※）又は、銀行振込（振込手数料はご負担ください）をご利用いただけます。

払込取扱票	銀行振込先口座
ゆうちょ銀行 加入者名：公益社団法人国際農業者交流協会 口座番号：00110-8-538246 ◆領収証送付のため、通信欄にご芳名、ご住所、電話番号をご記入ください。	みずほ銀行 蒲田支店 普　通：3106914 口座名：公益社団法人 国際農業者交流協会 シヤ）コクサイノウギョウシャコウリュウキョウカイ ◆領収証送付のためにご芳名等がわかるようにお振込みください。

※2022 年 1 月 17 日からゆうちょ銀行の払込みサービス料金の改定により、現金でお支払いの場合は、1 件ごとに通常払込み料金（協会負担）に 110 円が加算され、加算分についてはご負担いただくこととなります。尚、口座（カード・通帳を利用）からのお支払いの場合は、払込料金はすべて協会負担となりますのでご了承ください。

賛助会員及び寄付者には、税額控除団体の証明書と共に領収証を翌年 2 月中旬までに送付しますので、確定申告により税額控除を受けることが出来ます。

また、公益法人への寄付に関する詳しい説明のあるページをご紹介します。

https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html

賛助会費・寄付金へのお問い合わせはこちら ▷ TEL.03-5703-0251

令和3年6月11日以降（NF250にて紹介後）に御寄付頂いたのは方々は次の方々です。（令和3年11月9日現在）

北海道 / 蜂須賀 俊光　高松 正忠　金丸 栄省　新藤 修　相和 宏　宗像 いづみ　町田 哲　瀬口 俊行　棚 栄正　岡本 亮子　糸屋 新一郎　小林 靖夫　原井 松純　**青森県** / 藤井 英雄　気田 勉　**岩手県** / 伊藤 善光　横石 善則　**宮城県** / 長井 勝　永峰 智浩　川村 雄治　**秋田県** / 千島 義和　深澤 誠　深谷 和義　**山形県** / 粕谷 博志　武田 広樹　渋谷 政信　伊藤 誠之　**福島県** / 清野 喜明　**茨城県** / 永井 浩行　村野 秀典　田崎 秀明　長谷川 由起子　吉田 清　大原 篤　岡野 竜也　**栃木県** / 伊藤 直樹　鈴木 英士　**群馬県** / 大山 岳志　森田 精一　金岡 美智夫　小淵 敏夫　**埼玉県** / 石井 豊史　石山 希　**千葉県** / 中森 寿一郎　岩澤 正直　鷹尾 保馬　岡本 哲哉　**東京都** / 丸山 隆昭　伊藤 一男　村上 保裕　大森 齋　一箭 拓朗　高橋 康治　広瀬 由尚　**神奈川県** / 福田 努　石渡 康郎　**新潟県** / 荻荘 誠　渡部 春夫　近藤 和義　**石川県** / 西原 光臣　南出 清司　**福井県** / 山田 豊　**長野県** / 岩田 康宏　横森 正樹　菊池 辰夫　髙見澤 宣男　**岐阜県** / 石神 五雄　**静岡県** / 鈴木 好之　中野 文夫　杉本 吉輝　**愛知県** / 杉浦 知広　倉橋 幸嗣　久野 與吉　藤原 雅志　河合 幹雄　牧野 晃也　**三重県** / 池田 七郎　**滋賀県** / 北村 進一　**京都府** / 中野 宏　佐藤 貴哉　小嶋 直樹　**大阪府** / 櫛本 庄司　**兵庫県** / 西浦 道雄　加藤 寿之　竹村 雅敏　汐谷 保　吉田 二雄　**奈良県** / 水田 恵一郎　**島根県** / 山根 研一　有馬 儀信　安達 順　**岡山県** / 春名 義則　片岡 正章　妹尾 始　**広島県** / 栗田 賢　森田 幸秀　**山口県** / 原田 基也　星井 栄仁　村上 成人　熊崎 亨　木下 辰己　**香川県** / 國方 弘　酒井 祥成　前川 正明　**愛媛県** / 三好 雅代　増本 卓夫　檜垣 真城　工藤 清志　**高知県** / 鹿嶋 利三郎　楠瀬 剛弘　**福岡県** / 中村 茂　**佐賀県** / 稲富 篤　副島 准一　**長崎県** / 小金丸 梅夫　朝長 佑吉　**熊本県** / 佐々木 義次　池福 健介　碇 強　一瀬 俊郎　**宮崎県** / 大平落 泰憲　武田 馨　**鹿児島県** / 東 博光　有村 正弘　外園 享　柳田 米夫　後藤 美利　**沖縄県** / 仲本 英宏　**海外** / 大城 辰雄　（順不同、敬称略）

また同じく、今回新たに賛助会員へ入会された方々です。

団体　株式会社アクションコーポレーション　　**個人**　**茨城県** / 池田 訓之　**宮崎県** / 大崎 清　（順不同、敬称略）

協会人事

｜退　職｜ ～お疲れ様でした～

令和 3 年 10 月 31 日　村瀬　友子　（業務部受入業務課職員）
令和 3 年 10 月 31 日　須藤　拳吾　（業務部受入業務課職員）

協会の行事

ブロック別国際化対応営農研究会
（国際化対応営農研究事業）

＜北海道・東北ブロック＞
開催場所：岩手県盛岡市「アートホテル盛岡」
開催時期：令和４年１月26日（水）
※翌１月27日、組織会長及び事業担当者会議開催：（於：同ホテル）
問合せ先：岩手県国際農友会
一般社団法人岩手県農業会議内
TEL：019-626-8545

＜関東甲信静越ブロック＞
開催場所：長野県長野市「JA長野県ビル」
開催時期：令和４年１月28日（金）
※翌１月29日、組織会長及び事業担当者会議開催（於：同JAビル）
問合せ先：長野県国際農友会
長野県農業会議内
TEL：026-217-0291

＜東海・近畿・北陸３県ブロック＞
開催場所：奈良県奈良市「奈良県コンベンションセンター」
開催時期：令和４年２月３日（木）
問合せ先：奈良県国際農業者交流協会
奈良県農業水産振興課内
TEL：0742-27-7442

＜中国・四国ブロック＞
開催場所：鳥取県北栄町「鳥取県農業共済組合」
開催時期：令和４年２月12日（土）
問合せ先：鳥取県国際農業者交流協会
（会長：川本正一郎様方）

＜九州ブロック＞
開催場所：大分県別府市「豊泉荘」
開催時期：令和４年２月３日（木）
問合せ先：大分県国際農友会
大分県新規就業・経営体支援課内
TEL：097-506-3598

事業関係者の動向

訃報　謹んでご冥福をお祈りいたします。

Paul Hirai さん

長年にわたりBBCC及びBBCCFの理事をお勤めになったPaul Hiraiさんが、2021年８月31日、92歳でお亡くなりになりました。

Doris Swanstrom さん

Big Bend Community College（BBCC）にてJATPの秘書として長年研修生のお世話をしていただいたDoris Swanstromさんが2021年５月25日にお亡くなりになりました。享年84歳でした。

Evie Pariseau さん

アメリカのWA州で果樹研修生の受入農家（Pariseau Orchards ETAL）で、研修生の面倒を見てくださっていたEvie Pariseauさんが2021年６月30日にお亡くなりになりました。享年89歳でした。

編集後記

農業を志す若者に出会うと力をもらいます。明るい明日を想像することっていいですね。新たな年が良い明日となりますように！

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊 月4回金曜日発行
月額700円、年額8,400円
■お申込みはお住まいの市町村農業委員会へご連絡ください
■発行所　一般社団法人 全国農業会議所
〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8 中労基協ビル
電話03-6910-1130（平日9～17時、土・日・祝は休み）
ホームページ https://www.nca.or.jp/shinbun/

パソコン・タブレット・スマホでいつでもどこでも新聞が読める
電子版を配信中!!
あぐりオンライン 検索
クレジットカード払いのみでのお支払いとなります
月4回・毎週金曜日・午前0時配信　購読料 月額500円・年額6,000円

全国 OB・OG 組織

国際農友会 会報誌

Vol.25

contents

ご挨拶…… 1
各ブロックからの報告 …… 2～4
天地人…… 4
デンマーク研修は我が人生…… 5
横森正樹さんのフィリピン農業支援活動 … 6
活動報告…… 7
会員のひろば…… 8

伊藤一男氏撮影

新年にあたり 謹んでご挨拶を申し上げます。

国際農友会 会長
星 智宏〔宮城 S58米2〕

今般の新型コロナウイルスにより影響を受けている会員の皆様、また各地での災害発生により被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

世界に広がったウイルスは我々の生活を一変させ、国内においては外出制限、海外との交流は停止となり、研修生の渡航延期やアセアン研修生の来日延期など大打撃でした。食料流通にも大きな影響を及ぼし、消費の減少により米価や農畜産価格の低迷は我々の生活に直接的影響を及ぼした事に間違いありません。

ところで、農業就業人口全体では高齢化していますが、50歳未満の新規就農者は若干増加傾向のようです。定年帰農も含め、個人より法人化した経営体が増加傾向にあり、これは会社的な感覚と給料制によるところが大きいと思います。

海外農業研修生の募集においては、コロナ禍の影響で人材発掘に支障をきたし、研修参加者が減少している状況です。勧誘の場面でもよく言われるのは「この時期に海外研修はリスクがあるのではないか」でした。農業教育高度化事業により海外農業研修の参加経費の半額（最大60万円）が助成されると説明しますが、躊躇している現状があります。キャラバン活動がなかなか実を結ばず歯がゆいところです。しかしこの状況下で研修生がまったく途絶えてしまった訳ではないので、今後も各県のOB・OGの活躍に期待します。

また、先の衆議院選挙においては「国際競争力ある農業人材の育成に向けた議員連盟」の先生方も再選され、会長の林芳正議員は外務大臣に就任されました。自民党の新規就農対策を含む担い手の確保育成に向けた支援の施策のなかに、親元就農を含めた新規就農者の確保、育成を図るため資金支援や地域のサポート体制の整備、また農業高校・大学校の農業教育の充実を図る等々の文言がありますので期待したいと思います。

最後に、コロナ禍は我々の生活に影響を及ぼしていると同様に、国際農業者交流協会の運営にも多大なる影響が出ています。賛助金、寄付金等で運営されている協会であり、本来の事業展開ができなければ立ち行かなくなることもありえますので、会員皆様からのご支援とご協力を期待致します。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

コロナ禍を乗り越えて ～再会を楽しみに～

国際農友会 副会長
藤森 英明〔東京 H2米2〕

あけましておめでとうございます。旧年中は国際農友会の活動にご支援ご協力を賜りありがとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスという未知のウイルスとの戦いが始まって、2年近くが過ぎようとしています。私たちの生活も一変しました。国際農業者交流協会、国際農友会の事業についても多大な影響を与えています。昨年8月の東京オリンピック、パラリンピックも感染が爆発している中での無観客開催となりました。しかし日本国内では、ワクチン接種も進み、昨年10月の緊急事態宣言解除以降、感染者数が激減し、少しずつではありますが、以前の生活に戻りつつあるように思われます。

この2年でテレワーク、オンライン会議が普通になりました。国際農友会の総会についても書面表決、役員会等の会議については、オンライン会議になりました。海外農業研修生の募集でもオンラインでの説明会の開催、選考会の開催を余儀なくされました。全国5ブロックで開催されている国際化対応営農研究会についても昨年度は延期あるいはオンライン開催となりました。今年度につきましては、1月～2月にかけて以前のような対面での開催も予定されています。営農研究会、組織会長会議は、年に1回各地域で活躍しているOB・OGとの大切な情報交換の場でもあります。オンライン開催でも画面越しに繋がりますが、やはり直接会って色々お話しができるのは素晴らしい機会だと思います。感染が再拡大せず、以前の様な開催ができることを楽しみにしています。

結びに本年が会員の皆様にとって、実り多き年になりますようにご祈念申し上げます。

北海道・東北ブロック

「Myway」

青森県国際農友会
佐々木 基（H27アメリカ）

２０１６年、私は大きな期待と夢を膨らませアメリカへ飛び立った。「僻地へ飛ばしてください。」その一言で決まった配属先はBrackett Livestock。JABC始まって以来多くの研修生が汗と埃と牛にまみれたIdahoのカウボーイ農場だった。

私は青森県十和田市に生まれ、三本木農業高校卒業後に東京農業大学へ進学した。２年間環境保護や里山保全について学び、編入後は国際農業を学びタイやブラジルへ農業研修に行った。４年の夏休み、就職はしたくない、家に戻るのはまだ早いと右往左往していたところに出会った渡米研修。「これだ！」と思い、自転車での西日本縦断を終え直行した面接。私をカウボーイにするすべてのきっかけとなった。

私の実家は兼業農家で働きながら黒毛繁殖を営んでいた。当時畜産には興味がなかった。しかし、畜産経験もないまま実家には戻れないと思い研修では畜産コースを専攻し、帰国後は２年半地元の黒毛和牛一貫・短角牛農家で働き業界について学んだ。また、自分で生産した肉の味も知らずに「おいしいだろう」と憶測で食べ物を生産するのは生産に身を置くものとしていかがなものかと感じ肉屋の扉を叩き精肉カットを覚えた。

アメリカに行くまではカウボーイたちが自然と畜産動物と共存しているなんて思ってもみなかったし、オーガニックやNon GMOに対しての消費者意識が高いとも思っていなかった。

すべての思い込みが覆され日本の農業の遅れに気づかされた。そこで私は大学で学んだ里山とアメリカで経験した放牧畜産を組み合わせ、衰退している中山間地域の里山に畜産を導入することで新しい里山文化を形成することができるのではないかと考えた。戦後杉林の造成改革で失った広葉樹の山々。田舎暮らしと農村風景の創出は風景資源となりやがて人々が求めにやってくる。現代においてはＷｉＦｉがあればどこでも仕事ができ、わざわざ都会に住む必要もない。仕事はファストライフ、暮らしはスローライフという選択肢をとる人々が増えるだろうと予想している。

山を拓き放牧地にする。これは理想で今の私の夢であるが、１００万円の資金で買った３頭の短角牛から始まった私のストーリーは着実にその理想と夢に向かって１歩ずつ歩みを進めている。誰かが見ている時代から誰かに見せる時代になった今ＳＮＳを活用し今の自分を発信し続けている。その甲斐もあり、今年度県内の黒毛和牛、経産牛、交雑牛、短角牛とそれぞれ畜種や飼育方法が異なる農家が集まりブランド化及び海外進出を目指すＡＩＦＢ（あおもりインターナショナルファーマーズブランド）推進協議会の設立に加わった。また、青森県国際農友会の理事にも就任した。一人でも多くの後輩たちに夢のきっかけや刺激を与えられるよう夢にがむしゃらに突き進む若手の姿を露出していきたい。

関東・甲信静越ブロック

コロナ感染拡大の終息への願い

長野県国際農友会 会長
中村 隆宣

この２年もの間、会の活動は皆無でした。毎年行っている、総会、営農研究会はなし、アセアン研修生も農家研修は行ったもの、会としてはほんの少し関わっただけでした。会長としての活動もほとんどオンラインでの会議参加、東京に実際に行くことはありませんでした。こんな状況は当然、長野県だけでなく、各県の組織、国際農業者交流協会、国際農友会すべての皆さんが味わった苦い経験だったと思います。

さて、コロナ感染終息に向け、世の中が少しずつ変わり始めました。元に戻り始めたと言ってもいいでしょう。

令和３年度関東甲信静越ブロックの国際化対応営農研究会は１月28日に長野市で行うことになりました。ぜひたくさんの方にお越しいただけますようお願いします。

そして受入事業は、12月７日に３人のタイ人研修生が長野県入りし研修が始まりました。どうか、後戻りすることなく、コロナが終息して、日常が再スタートすることを願います。ここに掲げた写真は２０１８年のアセアン、欧州研修生の長野県での受け入れ、歓迎会の集合写真です。またこんな風に楽しくおしゃべりして、美味しいお酒がいただける日が来ますように！

東海・近畿・北陸３県ブロック

新体制に、そして新たな取り組みへ

兵庫県国際農業者交流協会
安福 元章（H10 米1）

兵庫県国際農業者交流会は、２０２０年度の通常総会で承認され、会長が西浦道雄氏に代わり石野雅治氏が就任しました。前会長の西浦氏は会長職を永年勤め、就任中には畜産シンポジウムや営農研究会を開催するなど功績が認められ、本会総会において、公益社団法人国際農業者交流会から感謝状が授与されました。

新たな会長の石野氏は、フィリピン研修生を受け入れたことから、フィリピンへの想いが強くなりました。研修生の帰国後も支援するために、実に1年の半分をフィリピンに滞在し、アセアン研修生の育成に費やしています。残念ながらコロナ禍により、ここ2年程度はフィリピン滞在を断念しており、行動制限が解かれることを心待ちしています。

では、本会の活動について紹介します。組織活動を円滑に行うためには、県行政の協力が不可欠です。まず、年度の始めに県担当者との話し合いや幹部職員への協会活動をＰＲし理解を得ています。主な活動は、兵庫県立農業大学校の一年生を対象に農業研修生海外派遣事業啓発を実施しています。その内容は、直近に海外農業研修を修了したホットな人がプログラムの紹介を、そして、ＯＢの中から優秀な農業経営を実践している人が経営や研修生への支援策などを説明しています。今年度も９月上旬に計画していました。しかしコロナ禍により延期が続き開催が危ぶまれましたが、兵庫県も行動制限が緩和されたこともあり、漸く12月１日に実施することになりました。海外農業研修生ＯＢである佐藤吉昭氏が昨年度から農大の職員として勤務しており、学生の身近な相談役となり、海外研修への啓発や不安解消につながる活動となっています。そう言っても本会の活動は、マンネリ化しており限界を感じています。通常総会への参加状況でも、限られた会員の参加や若手会員の参加が少ないのが現実です。今後、魅力のある活動を行うためにも、市町及び県行政との連携強化を図り、海外研修で得た経験を最大限に生かした研修会を企画するなど、会員が忙しくても参加したいと思う活動を目指したいと考えています。

中国・四国ブロック

つながりを感じる購入体験

愛媛県国際農業者交流協議会 理事
清家 正亀（S58 米2）

先日、いつものコンビニで珈琲を買ったら、アルバイト店員が「サービスのチョコレートです。」と小さなチョコを手渡してくれた。私は「ありがとう」と彼に伝えてお店を出た。そして熱い珈琲を一口すすりチョコレートを口に放り込んだ。「ああ、なんかこういうのって大事だよな。」と、ふと思った。

欲しいものを求めて立ち寄り、支払いを済ませて通りすぎるコンビニ。ささやかだが、実はこのような購入体験が社会をつないでいるのではなかろうか？

話は変わるが、今、私たちが愛する海外農業研修事業は苦しんでいる。全国OB・OG有志が体験談を懸命に語り、協会スタッフが洗練されたプレゼンテーションで事業を説明し、そして悲願であった国から研修生への助成金制度も整ったのに…である。

何が足りないのかと考えていたが、それは「つながりを感じられる購入体験」ではなかろうか。いまや農業界でもオンライン販売は常識かつ不可欠と言える時代だ。OB・OG同士で賑わうオンラインのコンビニがあってもいいじゃないか。そしてそういった目に見える研修生同士の経済的交流が、今後の海外農業研修事業が社会に存在意義を打ち出す呼水となるのではなかろうか。

昨年、関東甲信静越ブロック国際化対応営農研究会「アグリフォーラム２０２１」を機に、国際農友会のOB・OG交流サイト「newfarmers.jp」が立ち上った。YouTube配信、Zoomによる現地研修生へのインタビューなど「体験」を全面に押し出した発信は、研修生有志による配信番組「アグトレ・サロン」となり、現在も続けられている。今後は全国各地での組織活動をオンラインで支援し、将来的には各自が生産・販売する優れた農産物や各種サービスを実際にオンライン販売するマーケットプレイスも見えている。

チョコレートが口の中でゆっくりと溶けてはじめていた。

ホームページ、NewFarmers.jp

九州ブロック

派米研修をこれからの我が家の農業経営へ

熊本県国際農友会
原田 祥太郎（H27 アメリカ）

我が家は熊本県菊池市で、主にぶどう200a、トルコキキョウ60aを栽培する専業農家です。私は幼い頃から両親の楽しそうに農業をしている姿に憧れ、我が家を継ぐことを決めていました。そして、農業大学校を卒業後、視野をもっと広げたいと思い、海外農業研修に参加しました。

私が配属されたのはワシントン州北部にある、ゲバースファースという農場で、リンゴとアメリカンチェリーを栽培していました。栽培面積は約5,000haと広大で、日本の農業の規模の違いに、毎日驚きの連続でした。さらに驚いたのは、栽培、加工、出荷までそのほとんどをボスの親族で経営していたことでした。家族の絆の強さに感銘を受けました。

私たちの作業内容は、収穫補佐、木の剪定、苗木の管理、作業員の給料管理等でした。研修終盤はボス達のいるオフィスの仕事も増え、農業経営の方法や、会社組織の構成等も学びました。また、現地の人たちと触れ合い、多様性の大切さも実感でき、日本に帰国しました。

私は現在、就農5年目を迎え、我が家の経営の課題改善と、新たな作目の栽培にも取り組んでいます。ブドウ販売時期が8月～9月と短かったので、7月に桃、10～11月にいちじくを導入しました。販売所を長く開けることで、たくさんのニーズにも応えることができました。またSNSで発信したり、キャッシュレス決済を導入したりと、新規のお客さんにもたくさんご来園してもらいました。将来的には1年間通した直売を目指します。

熊本県国際農友会は繋がりがとても強く、交流会や、マルシェで農産物の販売、また青年部での現地研修等を行なっています。その中で、先輩方と意見交換やアドバイスしていただけるので心強いです。これから、海外農業研修に挑戦したいという人を1人でも増やし、支えていけるような活動をしていきたいです。

天地人（てんちじん）

今思うこと

国際農友会理事 木村 智子
（山口 H3 スイス）

私の住む町は山口県の北東部にある山口市阿東、島根県津和野町と隣接している。山口県内屈指の豪雪地帯でスキー場がある。また県内唯一のりんご園があり、米農家も多くコシヒカリや酒米をつくっている。とても風光明媚な景色が広がる田舎町だ。

嫁ぎ先はシクラメン、カーネーションなどを栽培する鉢物農家。実家が専業農家なので、農家の生活に抵抗はなかったが、鉢物栽培は初めてのことばかりで水やりや鉢上げなど仕事を覚えるのに苦労した。

今年で結婚25年、銀婚式を迎えた。子供は5人授かり、現在長男24歳、長女22歳、次男20歳、次女17歳、三男10歳と有り難いことに みんな元気でそれぞれの場所で頑張っている。今は家に居るのは三男のみで3人暮らしだ。

今思えば、長男を出産してから子育てをしながら仕事をする頃が一番大変だったと思う。初めての育児でわからない事ばかりだった。夜泣きもひどくて2歳になるまで続いた。育児書を毎日読んだり、離乳食作りも料理本を見ながら一生懸命頑張って作ったものだ。最初はみんなそうだと思う。子育てに正解はない。毎日思うようにいかずストレスもたまるが、私の場合、当時一緒に働いていたパートさんに話を聞いてもらったりしていた。長女を出産してからは少しずつ気持ちを楽に育児ができるようになったが、とにかく毎日必死だった。

今年長男は目指していた仕事に就くことができ、長女、次男も来年就職予定だ。子供達には日頃から「どんな事にも一生懸命頑張ったらきっといいことがあるよ」と言い続けてきた。私自身もそう思い続けて今まで頑張ってこれたと思う。

私にとってこの25年間は、仕事と育児に奮闘した25年だった。今もまだ10歳の息子に毎日手を焼いているが、子供達のおかげで色々な経験ができたし、私自身も成長できたと思う。これからも元気で一日一日を大切にして一生懸命頑張っていきたい。

デンマーク研修は我が人生

原井 松純
（北海道 /S43/ デンマーク）

昭和 43 年から 1 年半、6 人の仲間と共に国際農友会から派遣されデンマークにて Odense と Kolding の近郊で 6 か月ずつの酪農場での実習後 Esbjerg にある「Kære Gård 農学校」で 70 人のデンマークの学生と共に半年の授業を受けた。

当時、北海道では馬の時代からトラクターの導入が始まろうとしている時、ビートハーベスター、自走式ハーベスターとスチールサイロと機械化の進んでいる先進的なヨーロッパ農業に驚いたものである。

帰国から半世紀経つが未だにクリスマスカードで近況をやり取りしている。Odense では両親と少女 3 人の家庭であったが、Kolding では経営者夫婦と結婚したての兄貴分夫婦、農学校の日曜日には学生は自宅に帰るので私はこの農場に帰り 1 年間お世話になった事になる。

又、農学校の校長先生には TÅRAP のグラスチョッパーとテッピングワゴンを買って日本へ輸出する手続きでお世話になった。

帰国から 5 年後の昭和 50 年 9 月私達夫婦は新婚旅行でデンマークを訪れ 1 番目の農場では日本人研修生が集まってくれ、2 番目の農場では陰に日向になりお世話になった経営者が他界されていたので教会の墓前に花を手向ける事が出来た。

加えて農学校にも訪れたが、私達がヨーロッパを回っている間に校長御夫婦が日本の「Kære Gård 農学校」の卒業生を訪問し、遠い北海道の我家にまで来られこの奇跡的な出来事は昨日の様に思い出す事があります。

その後、ヨーロッパ視察の折、兄貴分の御夫婦にデンマーク視察の日程と宿泊のホテルを知らせ平成 23 年には Kolding から Odense 迄、平成 28 年には遠く Århus 迄会いに来てくれ人生でこんなに幸せなことはなかった。

その兄貴分も 3 年前に他界され今は奥さんが便りを寄せてくれます。我が人生に農友会の海外研修がこれ程満ち足りた人生を与えてくれた事に深く感謝するものです。

横森正樹さんの フィリピン農業支援活動

ＪＡＥＣはＪＩＣＡの草の根技術協力事業で、２００７年４月から２０１９年11月迄の期間に５期（約13年間）に亘ってフィリピン共和国ベンゲット州にて農業支援・技術改善プロジェクトを実施しました。この取り組みはフィリピンで評判となり、日比政府やＪＩＣＡからも高く評価されました。現在は外務省のＮＧＯ連携無償資金協力事業に組み替え、野菜流通システム改善プロジェクトとして継続されています。

このように連綿と受け継がれているフィリピン農業支援活動の礎となったのが横森正樹さん（Ｓ38 米３、長野県）です。

横森さんは事業発足から最終期まで農業技術専門家として関わって頂きました。事業計画段階から関り、何度も現地へ指導訪問されました。農家の畑を見回り、技術指導のみならず、「農業は人間の生活や健康、命に関わる重要な仕事であり、農民は人類に貢献しているという矜持を持ち自覚することが大切」という強いメッセージを伝えるようにしていました。

安全野菜栽培技術セミナー（ジェネラルサントス市）

その明解でしっかりした横森さんの農業者としての誇り高き姿勢が、現地の農民をはじめ農業省の高官や自治体関係者から信頼され心服を得て、横森さんはどの地域へ行っても大歓迎されました。

横森さんの業績は枚挙に暇がありません。

●各地で容易に手に入る材料で炭を焼き、副産物の木酢液を農業資材として利用。その方法が広く普及された。

●低コストで管理し易い簡易式の炭焼き施設の設置方法を紹介。フィリピン農業省や自治体により全国１５０基を超える数が設置された。

●野菜残渣や生ごみを堆肥化し土壌改良のために畑に投入する方法を奨励、農薬・肥料等のコスト削減を推進し、安全野菜栽培技術の普及に貢献。テレビやラジオなどのメディアでも紹介された。

炭・木酢液製造窯設置（ケソン州）

●ベンゲット州13町に簡易式の堆肥盤を設置し、同州内の２町には日本ＯＤＡ予算による大規模な堆肥センターの建設を後押しした。

●日本の有機栽培技術、炭や木酢液等を使った安全な野菜栽培技術、日本のイチゴ栽培方法等を紹介する冊子を作成し全国に配布。フィリピン農業省は、特に炭と木酢液の製造方法やその活用方法を紹介するビデオを制作した。

さらに、２０１２年には横森さんの活動が外務省のＯＤＡ白書で紹介され、２０１７年にはベンゲット州からその功績を称え、その恩を一生忘れないという意味で「エバーラスティング賞」が授与され、２０１８年には長年のＪＡＥＣ活動に対してＪＩＣＡ Ｃｈｉｅｆ Ｒｅｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｖｅ Ａｗａｒｄ（フィリピンＪＩＣＡ事務所所長賞）が授与されました。

横森正樹さんが情熱を傾け続けてくださり、フィリピン、特にベンゲット州の農業は大きく改善されたのだと思います。我々ＯＢ・ＯＧにとっても「日本人としての誇りある業績」に違いありません。横森さんの長年のご尽力に心から感謝いたします。

現地での指導（マルチ張り）

二十代のころ

佐藤英一
（福島県 /S43/ 米国１年）

私の住む福島県川俣町は、平地が少なく山ばかりです。若い頃はふるさとから出て広い世界を見たいと誰もが思うでしょう。私もその一人でした。20代前半のころ、農友会の実習生として、カリフォルニアで一年間農業体験をしました。そこで学んだことは、アメリカ式の大型農業ではなく、日本の農業は家族経営の小規模農業に未来があるということでした。その時に学んだ日本の稲刈りガマを使った草取りは、今でも実行しています。

豊かな国アメリカを見て今度は東南アジアの開発途上国に行って、貧しい人たちの役に立ちたいと思いました。ボルネオに青年海外協力隊として、２年間滞在しました。私はそこで、私たち日本人が忘れかけていた家族の強い絆を学びました。それは、福島原発事故の時、大いに役立ちました。ボルネオから帰った私は日系移民に関心を持ち農業研修としてブラジルに渡りました。そこで農薬まみれの農業とアマゾンの焼き畑による自然破壊を見て、ショックを受けました。それをきっかけに帰国してから環境保護という高い理想を掲げて、無農薬、有機栽培の野菜をと花を作るようになったのです。

二十代は若さがあります。情熱と好奇心が旺盛です。若い頃の海外生活は考える基礎となって、一生役に立つと思います。

初めての海外生活、見るもの聞くものすべてが新鮮でした。当時映画の西部劇ブームは終わっていましたが、ジョンウィンが出演した「駅馬車」の舞台を見てみたいと思い、アリゾナに向かいました。あの頃は何事にも好奇心がいっぱいでした。

海外農業研修の思い出募集中！

海外農業研修の思い出や今考えていることを教えてください。原稿を以下のメールアドレスまたは、宛先にお送り下さい。
写真などあるとさらにありがたいです！
ニューファーマーズは、温故知新の考えで海外農業研修経験者の縦糸を太くしていきたいと思います。

[連絡先] 〒 144-0051　東京都大田区西蒲田 5 丁目 27-14 日研アラインビル 8 階 JAEC
ニューファーマーズの係
E メールアドレス：agtre@jaec.org

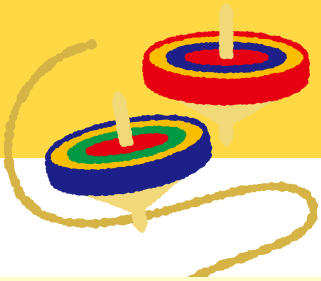
リドックス社の最先端農業資材
Redox from USA

＜アメリカでの飛行散布実績多数＞
日本ではドローンでの資材散布の需要が急増中！
● 高濃度での極少量散布が可能
● 持続可能な環境に配慮したサステイナビリティ
● 高い吸収率で無駄を削減
アミノ酸やフミン酸によるキレート効果、最新のマイクロカプセル化技術により、含有成分を保護することで、高吸収かつ高効率な農業資材を実現しています。

＜必要なタイミングに必要な分だけ＞
リドックス製品は豊富なラインナップを取り揃えています。
それぞれの製品を特定のタイミングで施用することで、その効果を最大限に発揮します。
● 糖度・うま味アップ
窒素代謝、光合成を促進
● 収量・品質アップ
細胞分裂、分化を促進
● ストレス軽減
抗酸化物質の生産を促進

AXION
株式会社アクションコーポレーション
〒104-0041 東京都中央区新富1-18-12
Tel.03-3553-7701　FAX.03-3553-7707

会員のひろば



会員の動向（敬称略、順不同）

叙勲・受賞

2018 年　2018 年冬春トマトグランプリ 篠原 貴大（栃木県 /H27/ アメリカ）　大賞と農林水産大臣賞を受賞
令和 3 年 秋の叙勲　旭日小綬章　　石井 平夫（埼玉県 /S42/ 米 2）

ご逝去

平成 26 年　武下 喜延（岡山県 /S52/ 米 2）
平成 26 年　岡 勝（和歌山県 /S32/ 米 3）
平成 28 年 4 月　中山 肇（和歌山県 /S46/ 米 1）
平成 28 年 8 月　多田 和男（神奈川県 /S37/ 米 1）
平成 30 年　鈴木 雅之（埼玉県 /S52/ 米 1）
平成 30 年　福田 伸也（熊本県 /S38/ 米 3）
平成 30 年　勝本 神威（熊本県 /S33/ 米 3）
令和元年 8 月　原 寛恒（長野県 /S43/ 米 1）
令和元年 8 月　原 武（東京都 /S31/ 米 3）
令和元年 12 月　中村 謙輔（群馬県 /S38/ 米 3）
令和元年　中田 豊吉（岐阜県 /S28/ 米 1）
令和 2 年 2 月　西村 市郎（京都府 /S34/ 米 3）
令和 2 年 4 月　佐藤 仁士（静岡県 /S32/ 米 3）
令和 2 年 5 月　我孫子 元直（長野県 /S51/ 米 2）
令和 2 年 8 月　冨田 俊衛（福島県 /S32/ 米 3）
令和 2 年 11 月　藤岡 一義（広島県 /S35/ 米 3）
令和 2 年　品川 隆雄（秋田県 /S46/ ドイツ）
令和 3 年 1 月　岩崎 隆敏（熊本県 /S60/ ドイツ）
令和 3 年 1 月　船戸 健次（北海道 /S33/ 米 3）
令和 3 年 1 月　木村 正澄（広島県 /S36/ 米 1）
令和 3 年 2 月　原口 繁（埼玉県 /S50/ オランダ）
令和 3 年 3 月　菅野 義憲（広島県 /S34/ 米 3）
令和 3 年 3 月　佐藤 友衛（青森県 /S42/ 米 1）
令和 3 年 4 月　安藤 宥一郎（長野県 /S34/ 米 3）
令和 3 年 4 月　岩永 武士（北海道 /S42/ 米 1）
令和 3 年 5 月　山本 昭一（鹿児島県 /S31/ 米 3）
令和 3 年 5 月　高田 徹（岡山県 /S41/ 米 1）
令和 3 年 6 月　中島 邦博（熊本県 /S45/ 米 2）
令和 3 年 6 月　細川 雄三（兵庫県 /S45/ 米 2）
令和 3 年 6 月　森澤 幹夫（富山県 /S37/ 米 1）
令和 3 年 7 月　大平 敬二郎（青森県 /S35/ 米 3）
令和 3 年 9 月　清家 万吉（愛媛県 /S42/ 米 1）
令和 3 年　成田 洪（千葉県 /S29/ デンマーク）
令和 3 年　宮本 達男（和歌山県 /S34/ 米 3）
年月不明　米沢 茂（鹿児島県 /S38/ 米 3）
年月不明　植田 常義（大阪府 /S35/ 米 1）
年月不明　榊原 省吾（愛知県 /S32/ 米 3）
年月不明　森田 庄市（群馬県 /S41/ 米 2）
年月不明　徳永 徹（長崎県 /S33/ 米 3）
年月不明　曽根 一太（岐阜県 /S29/ 米 1）
年月不明　新坂 泰典（鹿児島 /S38/ 米 1）
年月不明　篠塚 興一郎 (宮崎県 /S38/ 米 3)
年月不明　石畑　春二（鹿児島県 /S32/ ブラジル）
年月不明　黒羽 和夫（東京都 /S34/ 米 3）
年月不明　福場 一太（広島県 /S35/ 米 3）

編集後記

2021 年の流行語で特に気に入ったのは“ショータイム”。いろいろ暗くなるニュースがある中で、いつでも最高のパフォーマンスを見せてくれた大谷翔平選手は本当に素晴らしかった。しかし、ショータイムの前には仕込みが必要。準備こそ要。まずは地味な仕事をコツコツと。

「土からの学育」
幼児から研修生まで、その「やろう！」とする気持ちを育み伸ばします !!
森永 大直（もりなが ひろなお）（大分県 /S63/ 米 2）
・森永農園 園主：梨の生産 . 販売 . 作業受託
・JAEC：US 西日本講習所長
・国際農友会 理事
・大分県国際農友会　事務局長
・学研教室指導者：庄内元気な教室 / ゆふいん元気な教室
携帯：09020826160 | URL：hero.international@guitar.ocn.ne.jp
mail：daichoku.h.m@ezweb.ne.jp